

I 教育目標	
<p>人間尊重の精神を基盤として、予測困難な社会を力強く生き抜き、持続可能な社会の担い手となりうる人間の育成を目指して次の目標を設定する。</p> <p>○健康な人 ○努力する人 ○責任を果たす人 ○思いやりのある人 ○品位のある人</p> <p>・「子どもの権利条約」の4原則を守り、すべての子どもの権利が尊重され、幸せに成長できるようにするために、特に<u>生徒の最善の利益を第一</u>に考え、生徒の主体性を育みながら、未来社会を切り開くための資質・能力を育成する。</p> <p>・教育目標の5つの育成像とグッドマン精神（礼儀・親切・貢献）をもった生徒を育成するために、次の3つの方針のもと全教職員が全力で教育活動に取り組み、未来社会を切り開くための資質・能力を育成し、社会と連携してよりよい社会を創る担い手を育成する。</p> <p>1 豊かな人間性の育成 2 確かな学力の定着 3 地域とともにある学校</p>	

II 経営方針	
目指す学校像	<p>○5つの育成像とグッドマン精神の定着を図るために、<u>教職員一同知恵を出し合い「工夫力」を発揮</u>して、経営計画のもと全教職員が全力で取り組む学校</p> <p>○<u>教員の主体的な関わりと励ましの力で一人一人の可能性を引き出すことを第一とした学校</u></p> <p>○<u>保護者がこの学校で本当によかったと心から実感できる学校</u></p>
目指す児童（生徒）像	<p>○グッドマンの精神（広い視野をもち自分を鍛え、他人に礼儀と親切心をもち、勉学に励み社会貢献をいとわない精神のこと）をもった生徒</p> <p>○<u>安心して自分らしさを発揮できる生徒→「みんな、かがやく！」</u></p>
目指す教師像	<p>教育は感化（教師は自らの言動をもって影響を与える＝健全な学校文化）</p> <p>○<u>生徒一人一人を信頼し、ありのままを受け入れ、生徒の良さを引き出せる教職員</u></p> <p>○率先して<u>授業改善・研修に励み、チームF1（深川一中）の一人一人が意欲的に教育活動を行う教職員</u></p> <p>○危機管理意識をもち、<u>不断の備えがある教職員</u></p>
経営理念	<p>教育目標の5つの育成像とグッドマン精神の定着を図るために、<u>昨年の計画を踏まえつつ、中期目標・今年度の重点等による経営計画のもと全教職員が全力で取り組む。</u>その際、生徒の困り感に対してスピード感のある対応を行い、これからの共生社会に生きる質実剛健な生徒を育成する。</p>

III 経営目標	
重点領域 1	学力の向上〈基礎基本の徹底と生徒個々の能力の十分な発揮〉
中期経営目標	<p>○ことう学びスタンダードネクストステージの取組の推進</p> <p>○<u>考える力の育成のため言語活動を重視</u>し、効果的にICT機器を取り入れた「<u>わかる授業</u>」と「<u>家庭学習の定着</u>」を重視して学ぶ意欲を育成し、確かな学力の定着を目指す。</p> <p>○すべての授業で生徒の個性・能力が発揮できる場を工夫し、<u>考えを発表する時間を確保</u>する。</p> <p>○少人数学校の特色を活かした学年縦割りににおける教育活動の充実を行う。総合的な学習の時間を活用し、継続的に「<u>深一学</u>」に取り組みさせ、社会で活用できる「<u>生きる力</u>」の育成を図る。</p> <p>○ESDの精神を基本にした自ら課題を見つけ、考え学び、主体的に判断し、よりよく問題を解決する力をもった生徒を育成する。</p>

短期経営目標	<p>○ことう学びスタンダードネクストステージの各項目を達成し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善・授業スタイルを確立し、学力の向上を図る。</p> <p>○各教科・道徳・特別活動及び総合的な学習の時間等でICT機器を積極的に活用する。</p> <p>○ESDを推進し、各教科、道徳、学活、学校行事等に取り入れた授業を工夫し実践する。</p> <p>○「深一学」に取り組むことで生徒に「生きる力」と6つの能力・態度を習得させ、思考力・判断力・表現力の定着を図る。</p> <p>○「深川一中学習の手引き」の活用による家庭学習の定着を図り、「わかる授業」が実感できる生徒を育てる。</p>	
項目	努力指標（教師側）	成果指標（こども側）
1	○全教職員が「ことう学びスタンダードネクストステージ」を実施するとともに深川一中授業スタンダードを実践し「わかる授業」を実施する、教員の取組状況評価の肯定率を95%以上にする。	○生徒アンケートで「ことう学びスタンダードネクストステージ」の項目が達成できたと回答する生徒を90%以上にする。 ○生徒アンケートで、基礎基本が身についたと回答する生徒を90%以上にする。
2	○全教職員が生徒の個性・能力が発揮できる場を工夫し、考えを発表する時間を確保する。生徒の個性・能力が発揮できる場を工夫することへの教員の取組状況評価の肯定率を90%以上にする。	○生徒アンケートで、自分の個性や能力が発揮できる場があり、自分の考えを発表する時間や機会が確保されていたと回答する生徒を80%以上にする。
3	○全教職員が、学習の手引きを活用し家庭学習を定着させる指導に関する、教員の取組状況評価の肯定率を85%以上にする。	○生徒アンケートで、家庭学習を行ったと回答する生徒を80%以上にする。
4	○全教職員が総合的な学習の時間の「深一学」に取り組む、生徒の生きる力を育成する、教員の取組状況評価の肯定率を90%以上にする。	○生徒アンケートで、「深一学」に異学年が協力して課題に取り組み、6つの力のうちで1つでも身についた、とする生徒を98%以上にする。 ○生徒アンケートで、「深一学」に異学年が協力して課題に取り組み、生きる力が高まったとする生徒を98%以上にする
5	○全教職員が効果的にICTを活用し、授業を工夫して生徒の興味関心を高める、教員の取組状況評価の肯定率を90%以上にする。 ○全教職員が効果的にICTを活用し、授業を工夫して生徒の思考力・判断力・表現力を高める、教員の取組状況評価の肯定率を85%以上にする。	○生徒アンケートで、ICTが効果的に活用され、工夫された授業があったと回答する生徒を90%以上にする。 ○生徒アンケートで、ICTの活用で授業への興味関心が高まったと回答する生徒を90%以上にする。 ○生徒アンケートで、ICTの活用で思考力・判断力・表現力が高まったと回答する生徒を90%以上にする。
6	○全教職員が教科・領域でESDを取り入れた授業を工夫し、教員の取組状況評価の肯定率を85%以上にする。	○生徒アンケートで、各教科や領域でESDを取り入れた授業に意欲的に取り組むことができたと回答する生徒を85%以上にする。

重点領域2	インクルーシブ教育を基本とした生徒理解と支援で豊かな人間性を育成
中期経営目標	<p>○生徒指導の柱として、インクルーシブ教育システムの考えを基本にした支援活動の充実を図り、生徒理解に基づいた支援を行う。</p> <p>○生徒の多様性を尊重し、生徒の「困り感」への理解・支援に重点をおき、「何を教える」と「何を育てる」かのバランスを考えて支援に取り組む。</p> <p>○道徳の充実、徳育・知育・体育及び食育のバランスを基本に、基本的な生活習慣の確立を徹底する。特に道徳の時間を通して、社会や学校の規則を守り、礼儀・言葉遣いを正し、身だしなみを端正にし、公共心を育てる。また、人間関係や諸事象の問題解決能力の育成を図り、困難に遭遇してもくじけず、しなやかに乗り切る能力を育てる指導を充実させる。</p> <p>○特別支援学級においては生徒理解を深め、友達力を発揮し、適切な指導を工夫し生徒一人一人の能力の伸長を図る。またキャリア教育の視点に立ちさまざまな教育活動（生徒会活動・部活動・委員会活動）を通じて通常級との交流を自然に行えるようにする。</p>
短期経営目標	<p>○生徒一人一人の「困り感」に対して、全教職員で共通理解し、スピード感のある対応を行い、適切に支援できる体制づくりを進める。</p> <p>○通常学級と特別支援学級の協力の強化を図り、きめ細やかな支援を行う。</p>

項目	努力指標（教師側）	成果指標（こども側）
1	○全教職員が生徒の困り感を共通認識し、適切に支援する体制づくりの、教員の取組状況評価の肯定率を85%以上にする。	○生徒アンケートで、先生が、自分の困っていることを察知してくれて、授業や学校生活、人間関係などで個別に支援してくれていると回答する生徒を90%以上にする。 ○生徒アンケートで、本校に入学して良かったと回答する生徒を95%以上にする。
2	○全教職員が通常学級と特別支援学級の交流の強化を図り、きめ細やかな支援することの、教員の取組状況評価の肯定率を90%以上にする。	○生徒アンケートで、通常学級と特別支援学級の交流やふれあいに、意欲的に取り組むことができたと回答する生徒を80%以上にする。
3	○全教職員が多面的、多角的に考え生き方について考えを深める道徳の授業を実施についての、教員の取組状況評価の肯定率を85%以上にする。	○生徒アンケートで、道徳授業において、今までより生き方について考えられるようになったと回答する生徒を98%以上にする。

重点領域3		地域とともにある学校づくり
中期経営目標	<ul style="list-style-type: none"> ○地域学校協働本部の活動開発および地域力の活用を図る。 ○地域学校協働本部コーディネーターとの連携しながら、地域の人材の有効活用を図る。 ○生徒会活動・部活動や学校行事、ボランティア活動に主体的に取り組みせ、集団や地域社会の一員としてよりよい生活を築こうとする実践的な態度を養う。 	
短期経営目標	<ul style="list-style-type: none"> ○地域学校協働本部コーディネーターとの連携を図り、地域学校協働本部主催による講座の充実を図る。 ○地域学校協働本部主催の講座に参加させることで、生徒の個性や能力の伸長を図る。 ○生徒に、ボランティア活動に主体的に取り組みせ、社会貢献や地域を愛する力を育てる。 	
項目	努力指標（教師側）	成果指標（こども側）
1	○全教職員が地域学校協働本部担当と連携し、地域学校協働本部による講座の充実を図ることの、教員の取組状況評価の肯定率を90%以上にする。	○生徒アンケートで、地域学校協働本部主催による講座に参加したと回答する生徒を70%以上にする。
2	○全教職員が地域学校協働本部担当と連携し、生徒に地域学校協働本部による講座の参加を促し、地域の方々と一緒に活動することの、教員の取組状況評価の肯定率を90%以上にする。	○生徒アンケートで、地域学校協働本部による講座に参加した生徒で、地域の方々とのつながりが深まったと回答する生徒を85%以上にする。
3	<ul style="list-style-type: none"> ○全教職員が、地域清掃等、年間11回の防災教育実施に関しての、教員の取組状況評価の肯定率を90%以上にする。 ○全教職員が、生徒にボランティア活動に主体的に取り組みせる指導や地域に貢献する生徒を育成する、においての、教員の取組状況評価の肯定率を90%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒アンケートで、地域清掃等や年間11回の防災教育に意欲的に取り組むことができたと回答する生徒を90%以上にする。 ○生徒アンケートで、ボランティア活動に主体的に取り組み、地域等に貢献する気持ちが高まったと回答する生徒を90%以上にする。